

更なる次元の世界へ ～歩みを止めない！ オンライン学習活用で学力開花～

導入時期・内容

- ▶ 4/17(金) ●全教員Zoomダウンロード及び利用方法説明
- ▶ 4/18(土) ●ZoomによるWeb会議実施(全教員)
- ▶ 4/22(水) ●全生徒Zoomダウンロード及び利用方法説明
- ▶ 4/24(金) ●特別特進クラスでZoomによるオンラインHR開始
- ▶ 4/27(月) ●特別進学クラスでZoomによるオンライン授業先行実施(3教科)
●進学クラスを含む全クラスでオンラインHR開始
- ▶ 5/11(月) ●YouTube配信用学習動画撮影開始
●全クラスでオンライン授業開始(5教科)
●Zoomによる個人面談実施(健康状況や学習状況の確認)
- ▶ 5/20(水) ●CiscoWebexアカウント登録及び利用方法説明

オンライン授業の特長

ZoomやCiscoWebexによる双方向(リアルタイム)でのHR及び授業
YouTubeによる学習動画配信(録画配信)

工夫した点

- ・生徒個々のネットワーク環境を考慮し、リアルタイムでのオンライン授業とYouTubeによる動画配信を併用。
- ・オンライン授業の学習効果を高めるため、PowerPoint使用による要点の整理と見やすい授業の実践。
- ・デュアルモニターで、生徒の表情を確認できる授業展開。
- ・理科実験は、ズームアップすることで理解度アップ。



迫力ある実験動画



興味を起させる授業作り

効果

- ・ICT教育を通して、生徒の学習意欲を刺激し学習効果を高めた。
- ・学習の遅れに不安を抱く生徒たちを笑顔にすることができた。
- ・今後の社会で必須となるICT機器へのスキルアップを図ることができた。
- ・教員相互の問題意識の共有化により、協働性やチーム力が高まった。

生徒からの声

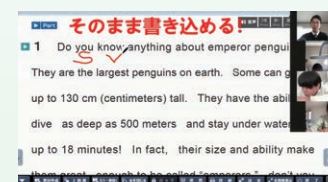
- ・実際に教室で授業を受けているようで嬉しかった。
- ・久しぶりに友達を見るのができて、当たり前のことが当たり前でないと感じた。
- ・自宅にいながら程よい緊張感で授業に参加できたので良かった。
- ・オンライン授業を受講する前に予習するようになり、授業理解と学力向上につながった。



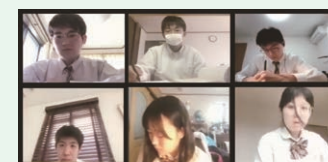
教材を工夫したわかりやすい授業

今後の展開と展望

- ・従来の対面型授業(教室での通常授業)に加え、ICTを活用した学習支援を積極的に展開。
⇒オンライン(双方向性)とオンデマンド(動画配信)のメリットを生かし、状況に応じて複合的に学習をサポート。(固定観念に捉われない臨機な対応)
- ・学習動画の配信を継続し、対面授業の復習ができる環境を提供。
- ・生徒個々の通信環境の整備と使用端末の確保によりICT教育を推進。
- ・授業の選択肢を増やし主体的な学びを促進。



オンライン教材でポイントチェック



教室と変わらぬ緊張感

双方向授業が 生徒と学びをつなぐ！ ～理解を深めるオンライン学習～

導入時期・内容

- ▶ 4/20(月) ●Zoomにて、部内職員会議実施
●休校期間を活用しZoom、Cisco Webexなど研修実施
- ▶ 4/27(月) ●ZoomによるオンラインHR実施
28(火) 30(木) 男女に分け少人数で行う。事後アンケート実施
- ▶ 5/7(木) ●YouTubeによる授業動画配信を試行
- ▶ 5/11(月)～ ●オンラインHR実施
授業動画配信(～5/29)
授業動画はYouTubeでの限定公開。各学年1日5コマを受講し「振り返りシート」にて確認作業を行う
- ▶ 5/13(水)～ ●分散登校による面談を実施

オンライン授業の特長

Zoom、CiscoWebexによるHRの実施。YouTubeによる学習動画配信
動画視聴後、副教材等を利用した個別演習を行い、1教科ごとに「振り返りシート」を記入し提出

動画配信に伴う「振り返りシート」活用について

【目的】

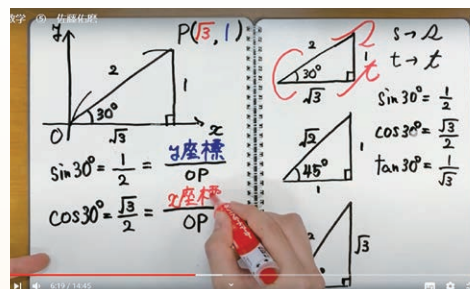
- ①授業への参加確認 ②作業に対する評価 ③感想記入=動画内容の評価
- ・科目や教科ごとに記入項目(設問等)を変え、動画を見なければ記入できないよう工夫。
- ・担任が添削、評価し、生徒に返却。生徒の力を育成することが最も重要と捉えて実施。

【学習効果】

- ①まとめたり、感想を書くことで、「書く力」が身に付く。
- ②記入をするために繰り返し動画を視聴することで、理解を深めることができる。

工夫した点

- ・授業はYouTubeを利用した動画配信を基本とし、生徒たちが時間を問わず見たい時間に何度でも視聴できるようにした。(作成コンテンツ数 約600)
- ・一般教科の他に、専門学科実習での作業などを解説する動画を配信。
- ①通常授業のような黒板を使った講義型 ②パワーポイントによる動画型
- ③手元を写した提示型 ④実習作業を開示した実践型
- など、授業内容にあわせた手法を用い、わかりやすい授業を心がけた。
- ・動画の管理を含め、クラウドの共有ファイルを活用することでいつでもどこでも閲覧・編集できるよう管理につとめ、教員間の情報共有・意識の向上を図った。



効果

- ・約15分の動画作成に数時間の準備を要したが、教員全体のICTスキルが短期間で飛躍的に向上した。
- ・視聴カウントの増加を目にすることで、生徒が何度も繰り返し視聴し、しっかりと学習に取り組んでいることが分かった。
- ・生徒たちの学習意欲が向上した。

生徒からの声

- ・Zoomでは、先生や友達を見るのができて嬉しかった。
- ・繰り返し視聴することで、自分のペースで学ぶことができ、理解が深まった。
- ・学校で授業を受けているような感覚を持つことができ、学習の遅れの不安が解消された。

今後の展開と展望

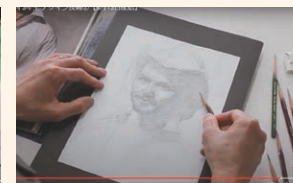
Society5.0の時代に向けた学校教育は、知識注入型の一斉指導から、生徒一人ひとりの状況に応じ個別最適化されることで、生徒主体の学びとなり、実社会に必要な「生きる力」の習得を目的とした学びに進化する。そのためには生徒たちの多様な資質や能力に柔軟に対応できる遠隔(オンライン授業・学習動画配信)と対面のハイブリッド型の授業を完成させなければならない。



家庭科動画



自動車整備実習動画



美術デッサン動画



オンラインで生徒と面談